

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	プール運営事業		基本目標	予防医療体制の整備		
担当課(局)・係	健康福祉課	健康推進係	記入者	鳥取 真弓	評価者	井上 敏郎
評価状況	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください					
	理由	<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)				

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を) 町民									
	意図・目的 プール利用により心身の健康づくりに役立てるとともに、1年間を通じて集客体制を整え収益増を目指す									
事業の内容	プール利用を呼びかけ、引き続き大人・子どもの水泳教室等の各種教室を開催する。水中運動普及員への研修会を実施する。委託先や普及員と連携を図り新規の利用者を増やし、継続利用へとつなげる。									
22年度決算額	20,836	千円	23年度予算額	21,720	千円	事業従事者数 H22 0.38 人 H23 0.38 人				
主な支出項目	委託料	16,800	千円	国庫支出金		千円	22年度人件費 2,734 千円			
	需用費	3,738	千円	県支出金		千円	23年度人件費 2,712 千円			
	役務費	297	千円	地方債		千円	23年度予算額における一般財源の割合(H23) 100.0 %			
			千円	一般財源	21,720	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください			
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名							
	補助交付団体		補助金要綱							
	22年度	補助額	#N/A	円	補助の形態	#N/A	23年度補助額	円	終期	年度
		団体の決算額	#N/A	円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等					
	補助の割合	#N/A	%							
	繰越額	#N/A	円							

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 利用者数	委託先及び水中運動普及員と連携しプールのPRを行い、利用者が増加する。
	2 プール利用料	利用者が増えることで、利用料の増収につながる。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 委託先との打合せ	定期的に委託先との打合せを実施。
	2 水中運動普及員研修	水中運動普及員への研修会を開催。
	3	

◎達成状況

指標名		単位	21年度	22年度	23年度	
成果指標	利用者数	目標値	人	22,700	25,000	26,000
		実績値		24,475	23,208	
		達成率	%	107.8%	92.8%	
	プール利用料	目標値	円	5,700,000	6,219,000	6,724,000
		実績値		6,174,200	5,721,100	
		達成率	%	108.3%	92.0%	
活動指標	委託先との打合せ	目標値	回	5	5	5
		実績値		5	5	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	水中運動普及員研修	目標値	回		8	7
		実績値		7	7	
		達成率	%	#DIV/0!	87.5%	
0	目標値					
	実績値					
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!		

事務事業名	プール運営事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	---------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数		
		自己評価	委員評価	
(必要性)	医療保険者による特定健診・保健指導が導入され、生活習慣病に対する積極的な予防が必要とされるなか、疾病別教室(国保事業)や特定保健指導の教室にも利用しており、町が直接評価していくことができる。 町内に住民が利用できるプールが本施設のみであり、事業を廃止するとプール利用ができなくなり、利用者に影響がでる。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	-	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	-	
有効性	プールを継続的に利用することによって、健康状態が改善されるとともに、アンケート(平成23年2月実施)より、仲間づくりの場となったり心の健康づくりにも役立っていることが推察される。	◎目標に対して成果は得られているか	1	-
		◎すでに目的は達成されていないか	1	-
効率性	委託先との打合せ、広報、教室の開催、水中運動普及員の活動等により、利用者の増加と楽しいプール利用になると考える。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	-
		◎費用対効果が十分に認められるか	1	-
協働性	水中運動普及員への研修を実施し活動していくことで、プールを知ってもらい(プールの広報・水中運動の普及等)継続的なプール利用へとつながる。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1	-
		合計(最高18点)	13	-

※町補助をしている場合のみ記入

(公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること			-
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか			-
	◎町民の理解が得られる事業であるか			-
		合計(最高4点)	0	-
その他				

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価内容	現状	今後の方向性			
			拡充	現状維持	縮小	廃止
	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	現状では現行の委託方式を継続する中で、町と委託業者が知恵を出し合いながらプールの利用促進について協議・検討する方向で進める。			○	
			コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎事業運営等は、指定管理者制度への移行など、よく研究して進めてほしい。 ◎水中運動普及員の増員を図ってほしい。 ◎特定検診をはじめ疾病予防事業としての医療費減少効果などを示せないか。 ◎健康増進に寄与できると思うので、より一層促進してほしい。 ◎活動指標にPR回数を盛り込んでほしいのではないかと。
	コスト	現状維持	
	委員評価	-	
	外部評価	-	